

# News >> from the Middle East

### 条件検索

- アラビア語メディア
- すべて  Al-Ahram
- Al-Nashr
- Al-Sabah al-Jadid
- ペルシア語メディア
- すべて  Sharq
- Hamshahri Iran
- Jam-e Jam
- E'temad-e Melli
- トルコ語メディア
- すべて  Milliyet  Hurriyet
- Radikal  Yeni Safak
- Zaman

### 特徴ジャンル

● 核問題 ● アルメニ

- アラビア語最新記事
  - 2007/01/29 米軍機攻撃のイ
  - 2007/01/27 エジプトの出生
  - 2007/01/26 フッシュ大叛権
- ペルシア語最新記事
  - 2007/01/31 アーヤトゥラー
  - 2007/01/31 イラン全土で
  - 2007/01/28 イワノフ露安全
- トルコ語最新記事
  - 2007/01/31 Türkler Alkan
  - 2007/01/29 チェルキシ語
  - 2007/01/29 Tarhan Erden
- その他最新記事

中東の新聞を翻訳し、紹介する事業を東京外国語大が進めている。殺伐、緊迫したニュースが多い中東だが、そうした状況に暮らす人たちはどのように考え、何を話題にしているのだろう

# 中東新聞和訳し紹介

## 東外大、ネットに週50本

**単眼**  
**複眼**

う。そんな疑問に「たえよ」といって「ロシア語」曰「本語で読む中東メディア」。語学教育の一環として始まった2年、毎週50本ほどの記事を翻訳し、ホームページで公開している ([http://www.el.tufs.ac.jp/pr/mis/news\\_j.html](http://www.el.tufs.ac.jp/pr/mis/news_j.html))。写真、メールマガジンも希望すれば週2回届く。

東外大では以前から新聞記事を教材として使ってきたが、郵便で届くまで1カ月かかった。それがインターネットの普及で、時間差なく読めるようになった。「貴重なニュースが多い。翻訳したものを教室の中に閉じておくのはもったいない」と狙いを林佳世子教授(トルコ・オスマン朝史)は説明する。

対象はアラビア語(エジプト、レバノン、イラク)、

ペルシア語(イラン)、トルコ語(トルコ)の三つの言語の計13紙。政治的立場のバランスも考えて選び、著作権の許諾を取り付けた。

翻訳は、まず学生が下訳をする。学部の3年生以上が参加し、コラムなど表現の込み入ったものは大学院生が担当。さらに、留学経験があるなど現地事情に詳しい若手研究者がチェックする。早いものは1〜2日で、手間がかかっても1週間以内にはホームページに載せている。

記事は地域の特色を念頭に、各新聞のホームページから選ぶ。アラビア語では地域の大国エジプトの動きと停戦後も緊迫が続くレバノン情勢を、ペルシア語なら政治と宗教の複雑な関係

が浮かぶものに力を入れている。トルコ語は欧州連合(EU)加盟やクルド問題などに加え、「トルコリーグで活躍する稲本選手とジュー監督の動向もフォローを心がけている」(非常勤研究員の山下王世さん)という。

同じニュースでも国によって扱いが違うことがつきりと分かる。昨年暮れのフセイン元イラク大統領の死刑執行では、エジプト紙が「落ち着いた様子で処刑室に向かった」と伝えるなど、アラビア語紙は総じて抑制的。対照的にイラン紙は「何千という家族を喜ばせた」と報じた。トルコ紙は処刑の映像がイラク国内で売買されていること、その一方で支持者が報復を誓

った様子も盛り込んでいる。「中東は一色のように見られがちですが、地域による多様さを知ってもらいたい」と林さんは語る。処刑のニュースは、国による受け止め方の違いと同時に、報道の自由の度合いの差も示しているという。

翻訳担当者間で専門用語の訳語を統一した用語集をつくるなど、成果もあらわれてきた。イスラエルのハブライ語新聞も加えたい、中東からの留学生も助言者に加えたい……構想はさらにふくらんでいる。

「5年の予定で始めたのですが、やめられなくなってきたかな」と林さん。教育・研究が社会貢献につながる貴重な試みといえそう

だ。(渡辺延志)